

先端研究助成基金助成金(最先端・次世代研究開発支援プログラム) 実施状況報告書(平成25年度)

本様式の内容は一般に公表されます

研究課題名	ネットいじめ研究の新展開-「行動する傍観者」を生み出すプログラム-
研究機関・ 部局・職名	筑波大学・図書館情報メディア系・准教授
氏名	鈴木 佳苗

1. 当該年度の研究目的

ネットいじめは従来の学校でのいじめの一形態(手段としてインターネットを使用したいじめ)であり、いじめ対策には早期発見と早期介入の観点が重要である。本研究では加害者・被害者の周囲の人々の行動に注目し、いじめ・ネットいじめの対策・予防に向けて以下の2点を当該年度の具体的な研究目的とした。

- (1) 対人トラブルを目撃した場合にどのタイミングでどのような行動を選ぶかを判断し、選択した行動の結果を踏まえて今後、さまざまな行動の選択肢のなかから個人や状況に応じて自分のできる行動を考えていくためのIS(インタラクティブソフトウェア)やこの教材を含む教育プログラムを作成し、実践・評価を行う
- (2) (1)の研究成果を含め、これまでの研究成果を筑波大学のウェブ上に公開し、広く提供する

2. 研究の実施状況

(1) ISの開発では、高校生・大学生・大学院生・高校教員を対象として段階的に評価・修正を行った【目的(1)】。Windows版とMac版のISを無料でダウンロードできるように専用サイトを制作し、運用を開始した【目的(2)】。ISは、主人公の女子高生が同級生(加害者)から彼女の仲良しグループのメンバー(被害者)に対する不満を聞くところから始まる。プレーヤーは、登場人物の会話を読みながら主人公の行動(仲裁、傍観など)を選択してストーリーを進め、早期に適切に行動すると事態の悪化を防ぐことができるが、行動のタイミングが遅れたり不適切な行動をとった場合には事態が悪化した3種類の結末のいずれかを体験する。ISの最後には、対人トラブルを目撃した場合の行動選択やネットの安全利用に関する解説を組み込んだ。

(2) 現役の高校教員からの助言を得て、ISを組み込んだ教育プログラム(ISの体験後に対人トラブルや対人トラブルが悪化した事態を目撃した場合の行動選択を学び考える内容)を提案した【目的(1)】。高校生を対象に実践・評価を行い【目的(1)】、学習内容への理解や今後の留意点への気づきなどが見られた。IS、ISを組み込んだ教育プログラムの教材パッケージ(zipファイル)は、無料でダウンロードできる専用サイトを制作し、運用を開始した【目的(2)】。

(3) ISの開発時に収集したコンテンツ教材の内容をまとめ(日本語・英語)、これまでの調査結果や成果発表などについてもウェブ上に追記し公開した【目的(2)】。

(4) 専門家や現役の高校教員からの助言を得て、(2)の教育プログラム以外にコミュニケーションの問題を学びスキルを養成することを目的とした、ISの素材(ストーリー・画像等)を用いた教育プログラムも提案した。この教育プログラムについても高校で実践・評価を行い、教材パッケージを

様式19 別紙1

ウェブ上に公開した。

3. 研究発表等

<p>雑誌論文 計 0 件</p>	<p>(掲載済み－査読有り) 計 0 件 (掲載済み－査読無し) 計 0 件 (未掲載) 計 0 件</p>
<p>会議発表 計 7 件</p>	<p>専門家向け 計 7 件</p> <p>(1) Suzuki, K., Yamaoka, A., Katsura, R., Sakamoto, A., & Kashibuchi, M. (2014). Effects of experience of stressful life events and stress on aggressive behavior toward student peers on the Internet and in school in Japan. Virtual Paper presented at Society for Information Technology and Teacher Education 2014. (Jacksonville, Florida, United States) (会議開催期間：2014年3月17-21日、会議主催機関名：Association for the Advancement of Computing in Education)</p> <p>(2) Suzuki, K. (2013). Current state of cyberbullying and bullying and counter-measures in Japan: Development of educational materials and future research issues. International session presented at the 3rd annual Bullying Research Network Think Tank (Santa Barbara, California, United States) (会議開催期間：2013年6月18-20日、会議主催機関名：Bullying Research Network Think Tank)</p> <p>(3) 堀内由樹子・樫淵めぐみ・山岡あゆち・猪股富美子・八巻龍・鈴木佳苗 (2013). 生徒指導における連携に関する教員の意識(1)－学校内外での情報共有に対する意識－ 日本教育心理学会第55回総会 (法政大学) (会議開催期間：2013年8月17-19日、会議主催機関名：日本教育心理学会)</p> <p>(4) 山岡あゆち・樫淵めぐみ・堀内由樹子・猪股富美子・八巻龍・鈴木佳苗 (2013). 生徒指導における連携に関する教員の意識(2)－生徒間のトラブルにおける被害届の提出に対する意識－ 日本教育心理学会第55回総会 (法政大学) (会議開催期間：2013年8月17-19日、会議主催機関名：日本教育心理学会)</p> <p>(5) 山岡あゆち・樫淵めぐみ・堀内由樹子・猪股富美子・八巻龍・鈴木佳苗 (2013). 教員・保護者・一般成人を対象とする法意識に関する調査(1)－法に対する意識－ 日本社会心理学会第54回大会 (沖縄国際大学) (会議開催期間：2013年11月2-3日、会議主催機関名：日本社会心理学会)</p> <p>(6) 樫淵めぐみ・堀内由樹子・山岡あゆち・猪股富美子・八巻龍・鈴木佳苗 (2013). 教員・保護者・一般成人を対象とする法意識に関する調査(2)－罰に対する意識－ 日本社会心理学会第54回大会 (沖縄国際大学) (会議開催期間：2013年11月2-3日、会議主催機関名：日本社会心理学会)</p> <p>(7) 堀内由樹子・山岡あゆち・樫淵めぐみ・猪股富美子・八巻龍・鈴木佳苗 (2013). 教員・保護者・一般成人を対象とする法意識に関する調査(3)－共同体・権利に対する意識－ 日本社会心理学</p>

様式19 別紙1

	<p>会第 54 回大会（沖縄国際大学）（会議開催期間：2013 年 11 月 2-3 日、会議主催機関名：日本社会心理学会）</p> <p>一般向け 計 0 件</p>
図書 計 0 件	
産業財産権 出願・取得状況 計 0 件	<p>（取得済み）計 0 件</p> <p>（出願中）計 0 件</p>
Webページ (URL)	最先端次世代研究開発支援プログラム ネットいじめの新展開－「行動する傍観者」を生み出すプログラム，筑波大学図書館情報メディア系< http://www.slis.tsukuba.ac.jp/ppab/ >
国民との科学・技術対話の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> ・教員向けの研修会（筑波大学附属坂戸高等学校）でネット利用、ネットいじめの問題を中心に講義し、教材の紹介を行った。（標題：「最近の『いじめ』をどう考え、対応するか？」実施日：2013 年 10 月 10 日、場所：筑波大学附属坂戸高等学校、対象者：教員、参加者数：34 名） ・「第 17 回総合学科研究大会」（筑波大学附属坂戸高等学校主催）において、教育プログラム等の紹介を行った。（実施日：2014 年 2 月 20 日、場所：筑波大学附属坂戸高等学校、対象者：研究大会の参加者〔筑波大学附属坂戸高等学校の教員・生徒・保護者、総合学科を中心とする全国の高等学校、教育関連機関からの参加者〕） ・「平成 25 年度春の研究発表大会 分科会② 『情報化の授業』」（大阪私学教育情報化研究会主催）において、教育プログラムや実践例の紹介を行った。（実施日：2014 年 3 月 21 日、場所：大阪私学教育文化会館、対象者：大阪私学教育情報化研究会の会員、大阪府私立中学校・高等学校の教員） ・FIRST シンポジウム「科学技術が拓く 2030 年へのシナリオ」（株式会社早稲田総研イニシアティブ）において、ポスター展示を行った。（実施日：2014 年 2 月 28 日、場所：ベルサール新宿グラウンド、対象者：研究者・研究支援者・行政関係者・企業関係者・科学技術に関心のある者等）
新聞・一般雑誌等掲載 計 0 件	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・本研究が世界と未来に向けた教育・研究及び様々な活動を紹介する TSUKUBA FUTURE において掲載された 「いじめの予防に向けて」TSUKUBA FUTURE, 筑波大学 <https://www.tsukuba.ac.jp/notes/013/index.html> ・研究協力者（私立羽衣学園高等学校教諭 米田謙三氏）が以下の研究会等で本研究の教育プログラムの紹介を行った 全国高等学校情報科研究大会、大阪私学教育情報化研究会、文部科学省フォーラム、PTA 研修・教員研修会

4. その他特記事項

実施状況報告書(平成25年度) 助成金の執行状況

本様式の内容は一般に公表されず

1. 助成金の受領状況(累計) (単位:円)

	①交付決定額	②既受領額 (前年度迄の 累計)	③当該年度受 領額	④(=①-②- ③)未受領額	既返還額(前 年度迄の累 計)
直接経費	77,000,000	50,692,000	26,308,000	0	0
間接経費	23,100,000	15,207,600	7,892,400	0	0
合計	100,100,000	65,899,600	34,200,400	0	0

2. 当該年度の収支状況 (単位:円)

	①前年度未執 行額	②当該年度受 領額	③当該年度受 取利息等額 (未収利息を除 く)	④(=①+②+ ③)当該年度 合計収入	⑤当該年度執 行額	⑥(=④-⑤) 当該年度未執 行額	当該年度返還 額
直接経費	10,887,320	26,308,000	0	37,195,320	37,195,320	0	0
間接経費	3,266,197	7,892,400	0	11,158,597	11,158,597	0	0
合計	14,153,517	34,200,400	0	48,353,917	48,353,917	0	0

3. 当該年度の執行額内訳 (単位:円)

	金額	備考
物品費	6,890,269	研究資料、分析ソフト、パソコン等の購入費等
旅費	2,312,659	研究成果発表旅費、実践研究旅費等
謝金・人件費等	10,560,429	研究員・職員人件費、助言謝金等
その他	17,431,963	教材開発費、ウェブ制作費、複写費等
直接経費計	37,195,320	
間接経費計	11,158,597	
合計	48,353,917	

4. 当該年度の主な購入物品(1品又は1組若しくは1式の価格が50万円以上のもの)

物品名	仕様・型・性能 等	数量	単価 (単位:円)	金額 (単位:円)	納入 年月日	設置研究機関 名
				0		
				0		
				0		